

【熊本国税局長賞】

税はチームプレー

熊本市立出水中学校

一年 田中 悠惺

税金は私たちの生活を支えているもので、生活に欠かすことのできないものである。私にとって身近な税金といえば買い物ときに払う消費税が思いつく。このような税金が私たちの生活を守り、支え合う仕組みであることは小学生の時に社会の学習で学んだりして少しずつわかるようになってきた。

私は小学六年生のとき、けがが悪化し、蜂窩織炎になって五日間の入院をしたことがあった。生まれて初めての入院であったことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあって家族の付きそいもなかったので少し不安な気持ちもあったが、看護師さんや医師の方が二十四時間働いて看病してくれていることを知り、安心して治療に専念することができた。そして、こうした入院治療を受けたにも関わらず、医療費の助成があったおかげで、入院にかかった費用がほとんど戻ってきたことを退院後に母から聞いた。そして、その助成は税金のおかげであることがわかった。私はこのような制度があることを知り、とても驚くと同時に感謝の気持ちがわいた。税金の有難さを身近に感じた出来事だった。

ところで、私は小学四年生のころからサッカーを始め、今もクラブチームで続けている。サッカーの魅力はなんといってもチームプレーだ。全員でつないだボールをゴールに決めた時の気持ち良さは言葉で言い表わせない程の喜びを感じるもので、それをチームメイトと共有することができるのだ。だから、ときには自分がしたいプレーよりも、チームが勝利するためのプレーを優先させる必要があるときだってある。

私が大好きなサッカーと税金は全く無関係のようなものに見えるが、同じようなところもあるのではないだろうか。税金はみんなの生活のために、みんなで出し合って、困ったときには助け合う。これは生活を守るための仕組みである。税金をみんなから集めることによって困っている人を助けることもできるし、私が困ったときには助けてもらうこともある。これは、まさに国民みんなのチームプレーではないだろうか。このチームプレーは個人個人がそれぞれの役割を果たすこと、自分が分担する税金をきちんと払うことによって病気になる時、災害がおこった時などに助け合うことができるのである。小さな協力がより良い社会へと近づく一つの仕組みなのだと思う。

このように税金というのは国民が助け合って生活していくために存在するチームプレーの証である。一人一人が税金の大切さを知り、一人はみんなのために、みんなは一人のためという気持ちで税金を納めていくことが、国民全員のチームプレーにつながるっていくのではないだろうか。私はこれからもきちんと税金を納めて、国民全員のチームプレーに貢献し続けていきたいと思っている。